

会 議 録

| | | | | |
|-------------|-------|--|------|----|
| 会議の名称 | | 第3回産業戦略会議 | | |
| 開催日時 | | 令和6年3月15日 開会 14:00 閉会 16:00 | | |
| 開催場所 | | つくば市役所 | | |
| 事務局（担当課） | | 経済部産業振興課 | | |
| 出席者 | 委員その他 | 石塚委員、木村委員、仁衡委員、伊神委員、片野委員 | | |
| | 事務局 | 【つくば市経済部】 片野経済部長、大橋経済部次長、柳町産業振興課長、中川課長産業振興課長補佐兼経営支援係長、寺田産業振興課企業立地推進係長、高橋産業振興課経営支援係主任、飛田産業振興課経営支援係主任、甲斐産業振興課産業創出支援係長 | | |
| 公開・非公開の別 | | <input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 | 傍聴数者 | 0人 |
| 非公開の場合はその理由 | | / | | |
| 議題 | | 1. 令和6年1月末時の進捗状況について 2. 重点プロジェクトの進捗状況について | | |
| 会議録署名人 | | / | | |
| 会議次第 | 1. | 開会 | | |
| | 2. | 議事 | | |
| | | 2-1 令和6年1月末時点の進捗状況について | | |
| | | 2-2 重点プロジェクトの進捗状況について | | |
| | 3. | その他意見交換 | | |
| 4. | 閉会 | | | |

【1. 開会】

○中川課長補佐

本日は、年度末のお忙しい中ご参加を賜り感謝申し上げます。懇話会の進行を務めさせていただきます、産業振興課課長補佐の中川です。着座にて進行させていただきます。

ただいまより、第3回つくば市産業戦略会議を開催いたします。本会議は、特段座長等は設けず、皆様フラットな状態で議論いただくことで、忌憚なきご意見を頂戴できればと考えております。また、今回が最後の会議となりますので、最後までどうぞよろしくお願いいたします。

なお本日は、神谷委員、鈴木委員、柳田委員、茂木委員について、欠席というご連絡をいただいております。

今回は、令和6年1月末までの実績に基づく評価をご報告しながら、このつくば市産業戦

略全体を振り返り、また、現在方向性を模索中であり、次期計画に向けたご意見などを広く頂戴できればと考えております。

【2. 議事 (2-1 令和6年1月末時点の進捗状況について)】

○中川課長補佐

以降の会議進行については、事務局である産業振興課の所管部である経済部部長に代わりたいと思います。片野部長よろしく願いいたします。

○片野部長

それでは早速議事に入りたいと思います。こちらの戦略については、令和2年度に策定をしておきまして、これまで令和4年1月、8月に第1回・第2回と会議を行い、令和4年度の途中までの皆さんにご報告を行って参りました。この3回目ですとまとめというような形になるかと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

ではまず、議事の方の一つ目の戦略の進捗状況について、事務局からご説明いたします。

※事務局から令和6年1月末時の進捗状況について説明

○片野部長

ただいまの1月末時点の進捗について事務局からありましたが、こちらについてご不明な点やご意見、ご質問等があればお願いします。

○伊神委員

つくば市創業支援融資信用保証料補助金についてですが、申請した事業者は継続して事業はされているのでしょうか。

○柳町課長

金融機関があいだにはいつの申し込むため、廃業があれば連絡が入るはずですが、そういった話は聞いてはいないです。

○伊神委員

使っていただくのが一番の目的だと思うので気になりました。

○柳町課長

できれば今委員がおっしゃったとおり、後追いはしていきたいと思っております。ありがとうございます。

○木村委員

似たようなところですけど、つくば産業フェアなんですけど、おそらく市としては、共催の費用負担みたいなことをなさって、それを商工会の方での展示会の出展助成という形に変えられたってことなのかなと思いますけれど。

○柳町課長

費用の方は、商工会さんの方で事業費の方は出されておまして、市としては、場所を借りることをやっておりました。カピオは市の施設になりますので、共催という形取れば会場の方は免除になるので。自らお客さん確保していきたいという、そういう意欲ある事業者さんへの個別の支援ということになったのかと思います。

○木村委員

出展支援の実績があったってことであれば、よかったかなと思います。

○石塚委員

66 番のスタートアップビザと連携した外国人創業支援について、研究支援センターでスタートアップパークの方やっているんですけども、ワンストップ相談センターっていうのを設けて、そこでも外国人、外国人の中でもスタートアップの場合ですけど、支援をしてきました。外国人が会社を立ち上げる場合は、ビザの問題とかがあって複雑となるようです。英語のマニュアル以外にそういう支援をしているというのを、ここで話しておこうと思います。

○仁衡委員

感想も含めて、あとちょっと要望というか提言みたいなことも少しお話をいただければと思います。まず感想ですけど、幅広く不公平感なく、戦略に沿ってやっていただいているな、と思っております。やはり基礎自治体ということで、幅広い方々にとって不公平感がないというのが一番大事だと思います。私はパラメーターが5つぐらいあるかなというも考えています。

まず、規模によって違い・不公平が生じないか。2つ目に業種によって不公平が生じないか。3つ目に地域によって不公平が生じないか。4つ目にジェンダーによって何か不均衡が生じないか。最後に新旧によって不公平が生じないか、ということです。新しい企業が優遇されたり、古い企業が優遇されたりせずに、不公平感なくされるといいと思います。これまでも申し上げてきたのですが、非常にそれが達成されていると思おまして、うれしく感じております。

特に認定制度件数が増加したということで、10 倍以上になっているということで非常にうれしく感じています。私の会社でも 1 年目 2 年目に 5 製品ほどつくばクオリティ認定していただきまして、この間研究支援センターさんで開かれた交流会でも、他の参加者の方か

ら、仁衡さんのまねをしてそしてクオリティ制度もらったというような言葉を聞きまして、非常にいい流れがつくれていのかなというふうに思っております。

交流会にはこの間初めて参加させていただいたのですが、非常にいい雰囲気だなと感じまして、それが今のご報告の中でも、2回ほど出てきましたけれども、その42番の事業者のデータベース化みたいな話のところでも、この交流会の名簿で話がありました。実際に名簿を拝見しましたが、非常に実際的な内容だなというふうに感じまして、ああいったものを地道に作るっていうのは、基礎自治体のいいところかなと思っています。県とか国になってくるともっと数が広がって、あの感じではできない。

また、マッチングを無理にやるっていうのはやめたほうがいいっていう話は前から申し上げているのですが、マッチングを無理にやるんじゃなくて場を提供するのが大事だというお話をされていて、その場の創出っていうことをすごく上手にやってらっしゃるところが、素晴らしいと感じました。以上が感想です。

それから、ご報告に関連し、要望・提言を2つほど申し上げたい。

中小企業者、地元中小企業者の課題としては、主に二つあると思っています。

1つはやっぱり採用難ということです。もう1つは事業承継。この2つについてぜひこ入れしていただきたい。

もともと採用できる人口が減っている中で、中小企業に回ってくる人が少ないということは、切実な状況だと思っています。そういう企業の話を見ると、2つの方向性があるって、1つは学生との接点をなるべく増やそうということをしている。もう1つは外国人採用を今まで考えてなかったけど、考えるようになった。大体その2パターンです。

そういう意味では学生との場づくりであるとか、外国人採用のための場づくりであるとかを、市のほうで考えていただけるといいのかなと思います。就職フェアといったようなお話がありましたけれども、もうちょっと前の段階がいいかなと思います。就職を直接的な目的にするようなイベントではなくて、例えば筑波大を中心に、就職フェーズに入る前に企業をより知っていただくような形のイベントを市でやってくれないかなと思います。学生さんに、大きくなくても、東京じゃなくても、面白い会社ってあるんだなっていうことを、大学1年生とか2年生の時に知ってもらう必要があります。

つぎに事業承継ですが、これはもっと難しい問題です。さっきの話と同じで無理にマッチングしても無理だと思います。なので、これもさっきと同じように場の提供が大切になる。年上の世代と年下の世代の経営者が交流会とかで行き会っていろいろ話しているうちに、なんだお前俺の会社継いでくれよみたいな、そういう話に自然になるっていうくらいしかちょっと手がないのではないかなと思います。

そうですねスタートアップとやめようとしているくらいの層の人はちょっと離れすぎているんですけど、中小企業でもう少しグラデーションがあるような世代が集まれる場の提供を、交流会みたいな形でこれからも続けていただくと、地道な事業承継の貢献ができるかなと思います。

○片野部長

採用難につきましては、今年度産業振興課で行った調査により、学生さんが市内の企業を知らないということが、かなり分かってきました。ですので、今おっしゃいましたように、まず早い段階から、こういった企業があるよっていうことを、学生さんにお知らせしていくというのが重要かなと思います。いろいろな手法がありますが、考えていけないといけねという話になっています。

○仁衡委員

全国から来た大学生で、つくばが気に入って、このままここで住みたいなっていう人はたくさんいるはずなのですが、地元の企業知らないしなんていうのがとても残念ですので、よろしくをお願いします。

○片野部長

そのほかいかがでしょう。

○石塚委員

交流の関係でいくと、県の方で経営者協会に入っている大手さんと中小企業とかのマッチングをしてくみたいなことを始めるようなのですが、経営者協会につくばの工業団地は入っていないので、それを私たちが仲介するかたちで県とつくば市さんの方からはその研究団地の企業さんたちを呼んで、一緒にやれたらいいなって思っています。1年、2年でなかなかそんなにすごい成果が出るもんじゃないですけど、続けていけたらいいなと思います。

【2. 議事 (2-2 重点プロジェクトの進捗状況について)】

○片野部長

では、次に重点プロジェクトの進捗状況について、事務局から説明いたします。

※事務局から、重点プロジェクトの進捗状況について説明

○片野部長

ただいまの重点プロジェクトについて、ご意見、ご質問等あればお願いしたいと思えます。

○木村委員

重点プロジェクト 1 の事業承継について、まず計画に対して相談件数が、もうこの時点で目標を超えているってということについては、大きな成果と言えると思います。

今後についてなんですけども、アンケートで同じことを聞いてもしょうがないというのがありました。今もうすでに茨城県の事業承継ネットワークに加盟されて、役割分担も進められていらっしゃると思うので、おそらく市としては、初期の段階、事業者さんにマッチングとかそのレベルじゃなくて、もっと初期の段階で、必要性を認識していただくというところに注力していただくのがいいのかなと思います。実際これはわたしのお仕事なのですが、専門家派遣として、事業者さんの事業承継計画を作るとかそういう支援をすることがありますが、その段階で派遣を依頼されてもなあ、あともう2、3年早かったらなあ、みたいな事業者さんがおります。そうなってしまうのは、本当はもうすぐやらないといけない段階であるところを、ちょっと後回しにしてしまっているからです。そうならないように、普段から情報発信なさっていらっしゃるかと思うんですけども、より喫緊の課題だっているところ、必要性を認識していただくことが重要となります。また、地道なヒアリングで社長さんたちの現在の状況がどのようになっているのかということに焦点当てていただければと思います。

そこはちょっと専門家がすぐ入っていけないところなので、行政の立場だったら接点を持ちやすいので、そこに注力していただいて、徐々に専門家だったり、金融機関だったりにつないでいただくのがいいのかなって思います。

○柳町課長

事業承継引継ぎ支援センターの相談員の方と話しても、事業者に早い段階で問題に気づかせることが重要である、行政だったらそれできると言われています。事業承継についてのアンケートも、行政がやると事業者の問題を気付かせるきっかけとなるので、毎年とはいわないけど続けてもらいたい、とも言われています。また、商工会さんでも事業承継の相談を受け付けているでしょうが、会員が商工会に相談しにくいということもあるようです。これが、行政であれば、もう少し相談しやすいようです。

○石塚委員

なかなか難しいと思うのでアイデアとしてだけ聞いていただければいいのですが、事業継承をしたい、土地建物を持っている人達がいて、一方でベンチャーでどこかに場所を持ちたいと思っている人達ってというのがいて、なかなかうまくは合わないと思うんですけど、その接点がないので、つくば市さんの方でそういう人たちがいるよっていうのを持っていただけると、事業や資産の一部承継ということになるかもしれませんが、マッチングができるかもしれないと思います。全国規模だと難しいけどこの地域で、という話だとあり得るのかもしれないなと思いました。相当難しい話なので、目標に立てたりしちゃうと難しいかもしれないですが。

事業継承したいって実際はどんな会社が多いですか。

○片野部長

筑波山なんかでも、上の売店とかでは高齢でなかなか子供たちが継がないっていうようなことがあります。

○伊神委員

地域にもよると思うのですが、ものづくりしている工場みたいなところもありますか。

○柳町課長

工場もあると思います。

○仁衡委員

さっきの筑波山の上の話は、小さい話かもしれないけど大事な話かなと思っていて、やっぱり山を登って、ああいう売店があって、冷たいものを飲めたりするというのは、とても大事な文化だと思うのですが、お子さんは継がないっていうのも、そうだろうなっていう気もしていて、若い20代とかであそこで毎日ものを売りたいと思わないだろうと思います。一方、ハローワークとかで一生懸命職を探している人はいるわけなので、選択肢としては、ハローワークさんとタイアップするなり、協力依頼するなりして、50代ぐらいの人が選択肢に浮かぶようにはできないのかなと思います。

○伊神委員

でも、山の上で継いでみてよかったってことも実際あって、生き生きされている方もいます。そこが自分の生きる場所みたいな方をクローズアップするのもいいかもしれないと思います。

○仁衡委員

重点プロジェクト3について、研究者に地元の企業を知っていただく機会、そういう場の提供っていうのは、とても大事だなと思っております。学生さんにも、研究者にも、地元企業を知ってもらってっていうのは、継続して続けないと人が入れ替わるので、大事なプロジェクトかなと思っています。先ほどお話あった、ものづくりオーケストラのツアーであるとか、市の方でやっている産総研のやつですとか、そういった機会がとても大事で、続けていただきたいと考えています。また、茨城県のほうでも今年JAXAの展示会をやるというお話があり、市としてはそれに相乗りでもいいとは思いますが、できれば別にやっていただいた方がベターかなとは思っています。

○甲斐係長

JAXAさんの展示会は継続するという方向性で考えているところです。

これについては、昨日打ち合わせさせていただきまして、できれば一緒にやって欲しいということを JAXA さん側からの要望を受けまして、多分来年度は一緒にということになるかと思います。

○仁衡委員

県の方でやっているのは、宇宙ビジネスでこれから儲けるぞ、みたいな方がやっぱり多いと思いますので、ちょっと違うのかなと。もちろん混ぜて一緒にやって全然問題ないのですが、テーマわからないっていう場よりは、テーマがはっきりこれですっていうほうがベターだと思うので、JAXA も 2 回やるのは大変ということであれば一緒にということでもいいですが、今後模索していただけるとよいと思います。

○伊神委員

重点プロジェクト 2 と 3 についてちょっと意見がございます。

重点プロジェクト 2 の認定の方は広がっているということで何よりです。これって、販売促進活動の支援件数というのがありますけれど、戦略の方向性の 32 ページに載っている「既存事業者の製品サービスなどの品質認知度を向上する」の、②番のふるさと納税の視点と、検討事業にある「インバウンドに対応した環境の整備」が繋がらないものかと思っております。なぜならば、外国人が非常に増えています。うちの社でもインバウンドに対応したお店を検討しているところです。そういった機会を使って広めていくのもありなのかなと思います。インバウンドとか、ふるさと納税という視点の部分には市としては視野に入っていますでしょうか。

○甲斐係長

ふるさと納税に関してはつくばコレクションの詰め合わせセットっていうのをやっていますが、実際売れるものとしては冷蔵品とかの希望が多いです。なので、少し選べるような形にうまくできないかなということを検討しています。物産品に関するインバウンドっていうのは、今まで視点としてはないです。ただ外国人の方に知っていただけるような機会っていうのは必要だと思うので、市報などでご紹介できるような機会ができればいいかなというふうには考えています。

○伊神委員

重点プロジェクト 3 の方ですけど、これについては、異業種っていうところで、科学技術人材っていうところで、科学みたいなところはすごくあるけれど農業分野っていうのはどうなんだろうなと思いました。例えば、農研機構さんとかつくば市内にありますけど、そこでは数々の品種を開発していながら、意外と地元では社会実装していない。農研機構側としては自分たちの伝手で、どこに広めようかみたいところはあるのですが、や

っぱりこの地元で広まって、全国に広まっていくみたいなのができればよいと思います。情報交換とかしてみるといいんじゃないかなと思っております。

○甲斐係長

どうやって農研機構の方と連絡とればいいんだろうみたいなご相談を受けることはあるので、そういった時にはおつなぎするようにはしています。

○伊神委員

情報発信してあげるといいなと思いました。

○甲斐係長

農業政策課の方で、農業をやってらっしゃる方とのコンタクトっていうのはあると思うので、そこと連携しながらやっていきたいと思います。

○片野部長

つくば市としては、令和6年度までに新たな農業基本計画っていうのを作る予定でいます。今のような視点も、私の方から農業政策課の方へ伝えたいと思います。

○伊神委員

つくば市だったらばやっぱり先進的な取り組みをして、生産性を上げるようなことを、もうちょっと力を入れてってもいいんじゃないかなと思います。

○片野部長

農業政策課の方にも伝えます。

ありがとうございます。

○仁衡委員

伊神さんの話すごく大事だなと思っています。県のいろんな会議とか出ても思うのですが、商業と工業と農業ってすごく分かれちゃっていて、いろんな政策のやる以上、分かれているのはしょうがないのかもしれないですけど、繋がりにくいというのは課題なんじゃないかと思います。

○石塚委員

農家さんももう小さいところだといっぱいっばいなので、将来的にというより今売れるものを作りたいんですね。実験よりも今確実に確立されているやり方でやりたいってどうしてもなる。農研機構さんは、つくば市のためにやっているわけじゃなくて国全体

に対してやっているの、ここだけに特別っていうのはなかなかやっぱり難しいようです。やれるとしたら、やっぱりつくばの特産品としてこれやる、みたいな強い意志がつくば市にないと難しいかなと思います。ただ、茨城県全体そうですけど、首都圏近いので、茨城のメロンはどんどん売れるのでブランド化する必要が特にないということもあります。一方で、なにか特産品として目立つものをつくりたい、ということもあります。

○片野部長

生産を行政で主導していく場合、やっぱり最後のお尻までの流通・買い取りを確立してないといけない、というところがあります。生産者としては作っても売れない、手元に残っちゃう、というリスクを考えるためです。流通がきちんと確立できてれば、皆さんも高くても、手に取る人が現れて、うまく循環していけば、農家も生産できるのですが。最後のお尻の部分までのながれを行政としても作っていかないと、なかなか農家さんも納得してやりましようとならないのが難しいところです。

○伊神委員

ちょっと脱線するかもしれませんが、給食とかでもそういうのが出てくれば、子供から親がこんなの食べているんだっていうのを知って、地元の郷土の料理に愛着持ったりする動機付けになるんじゃないでしょうか。

○石塚委員

いろんなチャンネルで、愛着の持てるようなブランドづくりがあるといいなと思います。

○伊神委員

ブランド広めるというチャンネルは幾らでもあると思うので、そこを十分活用していただければと思います。

○仁衡委員

交流会の農業バージョンみたいなやつをやっていただけたらいいのかなと思います。やっぱり若い世代じゃないと、やれないっていうことがある。または、その集まる場みたいなものを何か模索していくしかないんじゃないかなと思います。

○伊神委員

全般的な話になるかもしれないですけど、私もいくつかの市町村の首長さんと情報交換する時があるのですが、その時にやっぱり胸を張って、自分の市町村はこんなのがあるんですよ、というものを持って、説明してくださる行政さんとそうでないところがあります。職員が産業に興味を持って、てこ入れを一生懸命やってらっしゃるところは、例えば

こんな農産物とかが推しなんです、みたいなカタログを渡しながら、あとイベントがいついつあるので、機会があったらぜひいらっしゃってください、みたいな言葉を添えて、職員自体がPRするような、名刺の裏にも必ず特産品を入れたりとかっていうのが、力がはいつているところとそうでないところが明確に違うんです。そういった、市の産業を愛するようなPRっていうのを少し皆さん持っていただけるといいなと思うんですね。名刺の裏とか、会った人にお渡しするものとかによって、うちのつくば市は、こんな誇れるものがあるんですっていうのを発信していくといいと思います。

○片野部長

明石市の明石焼きの名刺はすごかったです。そういうものをもらっただけでもインパクトありますので、そういった手法も今後検討したいと思います。ありがとうございます。

○石塚委員

つくば市で今これ売り出そうとしている、みたいなものってあるんですか。

○片野部長

一つの例で言うと、お酒です。つくば市では日本酒、ワインの生産があり、ビールの醸造所もあります。今後、力をいれてPRしていけたらと考えています。

○伊神委員

蔵元さんたちを集めて何か仕掛けられないかと。ちょっと今バラバラだなんて思います。

○片野部長

先日、蔵元さんに集まってもらう機会がありました。みんなで取り組んでいこうということに、みなさん賛同されまして、次年度は会を立ち上げる予定です。

【3. その他意見交換】

○片野部長

ほかにご意見はありますか。

では、議事の方は終了させていただきまして、今度の新しい令和7年度からの産業戦略策定に向けて、委員の皆様から助言であるとか、ご提言があれば、お願いできればと思います。

○仁衡委員

まず最初の段階で、できるだけ地元の市民とか企業の立場でどんどん意見を言う会だということを、委員の皆さんに理解してもらってから取り組んでいただくことが重要だと

思います。

○木村委員

2点ほどあります。今の戦略を拝見して、創業の事業者さん、あるいは引き継ぎの時期を迎えている事業者さんに対しては、結構手厚いなっていう感じがあるんですけども、その間の既存の事業者さん、成長途中の事業者さんのところをもう少し強化するような戦略があるといいのかなと思います。入口と出口は非常に際立っているので、逆に間のところがあったらいいなと思っています。ワンストップ窓口などの面で、商工会さんともう少し連携が強化できればいいのかなと思います。柳田委員とその辺ちょっと話もできればと思ったのですが。

もう一つは、副業で創業される方を支援していかないといけないということです。なかなか最近増えてきているっていうのを感じています。どうも働き方が変わってきている。専門家として必要だと思っています。そういうところ、石塚さんなんかどう思われますでしょうか。

○石塚委員

私たちのやっている方では、副業で創業する人は、研究所の人くらいですかね。副業人材紹介するサービスを県の方でやっていたりするので、そういうところをうまく活用していけばいいかなと思います。

あと、全体の話でいくと、つくば市がやる事業に賛同して、ファンを増やしていくことでいろんなことがうまく回るとしています。

○伊神委員

産業を盛り立てていくためには、ここでやってよかったって思う方が多いほうが長く続くと思う。県内でも人口が伸びているところは数少なくて、つくば市は本当に特別なんだっていうぐらい恵まれている。いい環境だっていうところは大いにPRしていただきたいなと思います。

○石塚委員

住む環境がいいっていうのはすごくみんな言っていますよね。コロナでつくばにちょっと移住したけど、もう家族が戻りたくないって言うから、つくばに暮らすっていう人もいます。住みやすい、いいまちだと思います。

○仁衡委員

最初の発言時に申し上げた2点に尽きます。やっぱり中小企業の採用の問題と事業承継の問題、この二つが今最大の課題だと思っています。

○片野部長

貴重なご意見どうもありがとうございました。

これからの作業戦略も改定作業に入っていこうというところですが、皆様からいただいたご意見については、録音もしておりますので、もう一度確認をして、取り入れていきたいと考えております。

【4. 閉会】

○中川課長補佐

長時間にわたり、活発なご意見いただきましてありがとうございました。

それでは今回、産業戦略会議の最後となりますので、片野経済部長からご挨拶をさせていただきます。片野部長よろしく申し上げます。

○片野部長

本日は御多用のなか、ご参集いただきまして、ありがとうございました。

冒頭でもお伝えしたとおり、今回をもちまして、つくば市産業戦略会議が最後となります。現在の産業戦略は令和6年度までの計画となっておりますが、令和7年度からの5年間の計画である次期戦略を現在策定中であります。これまで委員の皆様から頂いたご意見等を踏まえまして、つくば市が持つポテンシャルや強みを生かした計画になるよう、改訂作業を進めてまいります。

これまで本会議にご協力いただき誠にありがとうございました。